

教育研究業績概要

氏名 榎屋 友幸 ()		
研究分野	所属学会等の名称	
臨床薬学、臨床薬理学、薬物治療学、薬物動態学、薬効解析学、医薬品情報学	日本医療薬学会、日本薬学会、日本感染症学会、日本中毒学会、日本化学療法学会、International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology、日本医薬品情報学会	
担当授業科目名 医薬品情報学、事前実習		
教育上の能力に関する事項		
事項	年	概要
1 教育の実践例、教育に関する評価等	4	4学年の医薬品情報学および事前実習を担当している。
2 作成した教科書、教材、指導書等		なし
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等		10年間、三重大学医学部附属病院で臨床薬剤師として勤務した。
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項		
事項	年	概要
1 資格、免許、特許、受賞等	2004年11月～現在 2012年9月～現在 2013年10月～現在 2016年1月～現在 2016年4月～現在 2018年1月～現在 2018年1月～現在	薬剤師 授与権者：厚生労働大臣 感染制御認定薬剤師 任命権者：日本病院薬剤師会会長 抗菌化学療法認定薬剤師 任命権者：日本化学療法学会会長 認定薬剤師 任命権者：日本医療薬学会会頭 感染制御専門薬剤師 任命権者：日本病院薬剤師会会長 認定クリニカルトキシコロジスト 任命権者：日本中毒学会会長 医療薬学指導薬剤師 任命権者：日本医療薬学会会頭
受賞	2015年10月 2016年6月 2016年10月 2016年11月 2017年9月	14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology Best Poster Award (Rotterdam, Netherland) 授与権者：14 th IATDMCT Congress Chair 第63回日本化学療法学会総会 優秀演題賞（新宿区） 授与権者：第63回日本化学療法学会総会会長 平成28年度日本医療薬学会 Postdoctoral Award 授与権者：日本医療薬学会会頭 第43回日本臓器保存生物医学学会学術集會会長賞 授与権者：第43回日本臓器保存生物医学学会学術集會会長 日本TDM学会 第15回IATDMCT学術大会派遣賞（海老原賞）

2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等		
日本中毒学会評議員 三重県病院薬剤師会理事 三重県病院薬剤師会感染制御部会長	2018年4月～現在 2020年4月～現在 2021年5月～現在	
【勉強会・研修会での講演】		
第34回 日本TDM学会・学術大会 平成29年度 第2回感染制御部研修会（三重県病院薬剤師会感染制御部）	2017年9月 2017年11月	シンポジストとして講演した。 演題名「感染症治療薬における使用上の注意事項」について講演した。
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2017	2017年11月	シンポジストとして講演した。
平成30年度 第2回感染制御部研修会（三重県病院薬剤師会感染制御部）	2018年6月	演題名「敗血症・DICの医薬品適正使用」について講演した。
第28回 日本医療薬学会年会	2018年11月	シンポジウムをオーガナイズし、またシンポジストとしても講演した。
2018年度第2回感染制御部研修会（三重県病院薬剤師会感染制御部）	2019年2月	演題名「敗血症性DICに使用する薬の基礎知識」について講演した。
2018年度第3回生涯研修講演会（三重県病院薬剤師会）	2019年2月	演題名「臨床薬剤師によるEBMの実践」について講演した。
日本薬学会第139年会 第	2019年3月	シンポジウムをオーガナイズし、座長を担当した。
第36回日本TDM学会・学術大会	2019年5月	シンポジウムにて、「CYP3A5の遺伝子多型とタクロリムスのTDM」の課題名で講演した。
2019年度第3回感染制御部研修会（三重県病院薬剤師会感染制御部）	2019年10月	演題名「抗菌化学療法の基本（尿路感染）」について講演した。
第29回日本医療薬学会年会	2019年11月	シンポジウムにて、「急性薬物中毒の症例から見出されたクリニカルケース」の課題名で講演した。
2019年度第4回感染制御部研修会（三重県病院薬剤師会感染制御部）	2019年12月	演題名「重症感染症における薬物療法～ DICの予防と治療～」について講演した。
日本薬学会第140年会	2020年3月	シンポジウムをオーガナイズした。
第30回日本医療薬学会年会	2020年10月	演題名「高齢者における感染症薬物療法における注意点」について講演した。
日本集中治療医学会第4回東海北陸支部学術集会	2020年11月	演題名「5. 臨床薬剤師によるTDM研究のさらなる発展に向けて」について講演した。
令和2年度第1回生涯研修講演会（三重県病院薬剤師会）	2021年1月	演題名「血液浄化、補助循環における薬物動態の考え方と注意点」について講演した。
第37回日本TDM学会・学術大会	2021年5月	演題名「症例カンファランス 私にもできる抗菌薬（テイコブラニン）の投与設計」について講演した。
第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会	2021年6月	演題名「救命救急・集中治療領域において臨床薬剤師が基礎研究をオーガナイズすることの重要性」について講演した。
2021年度第2回感染制御部研修会（三重県病院薬剤師会感染制御部）	2021年10月	演題名「持続血液ろ過透析(CHDF)やECMO管理中の患者における薬物動態の考え方」について講演した。
日本薬学会第142年会	2022年3月	シンポジウムをオーガナイズした。
その他13件		

<p>2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等</p> <p>【講師】</p> <p>2019 年度在宅アドバンス研修会（三重県薬剤師会）「BLS」</p> <p>2019 年度新任薬剤師研修会（三重県病院薬剤師会）「TDM と処方設計実技」</p> <p>2019 年度在宅アドバンス研修会（三重県薬剤師会）「BLS」</p> <p>2019 年度未就業薬剤師研修会（三重県薬剤師会「バイタルサイン実習」「デバイスを使用した服薬指導」</p> <p>2019 年度在宅アドバンス研修会（三重県薬剤師会）「BLS」</p> <p>2020 年度在宅アドバンス研修会（三重県薬剤師会）「BLS」</p> <p>2021 年度在宅アドバンス研修会（三重県薬剤師会）「BLS」</p> <p>2022 年度復職転職サポート研修会（三重県薬剤師会「バイタルサイン実習」「デバイスを使用した服薬指導」</p> <p>その他 5 件</p>	<p>2019 年 7 月 7 日</p> <p>2019 年 9 月 7 日、8 日</p> <p>2019 年 9 月 29 日</p> <p>2020 年 2 月 1 日</p> <p>2020 年 2 月 9 日</p> <p>2021 年 1 月 21 日 2021 年 2 月 9 日</p> <p>2021 年 9 月 23 日 2021 年 9 月 26 日</p> <p>2022 年 1 月 29 日</p>	<p>BLS の手順および ACLS について講義を行った。</p> <p>感染症における薬学的介入方法と抗 MRSA 薬の解析方法について説明を行った後、モデル感染症症例を題材として感染部位、起因菌、重症度、抗菌薬の選択について小グループ単位で考えさせ、抗菌薬の処方設計プランを立案させた。結果をグループ単位で発表した後、討論させた。引き続き、TDM 解析ソフトを用いて塩酸バンコマイシンの初期投与設計を行わせた。</p> <p>BLS の手順および ACLS について講義を行った。</p> <p>「バイタルサイン実習」については、栄養評価の方法を解説し、実習を行った。</p> <p>「デバイスを使用した服薬指導」については、点眼薬および眼軟膏の服薬指導を講義した。</p> <p>BLS の手順および ACLS について講義を行った。</p> <p>BLS の手順および ACLS について講義を行った。</p> <p>BLS の手順および ACLS について講義を行った。</p> <p>「バイタルサイン実習」については、栄養評価の方法を解説し、実習を行った。</p> <p>「デバイスを使用した服薬指導」については、点眼薬および眼軟膏の服薬指導を講義した。</p>
---	--	--

研究業績等に関する事項

著書名, 報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
<p>(著書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬局増刊号, 2014年50巻11号 ・新薬展望増刊号, 2016年Vol.52 S-1 ・月刊薬事, 2017年1月号 Vol.59 No.1 ・コンパス調剤学 改定第3版 ・月刊薬事, 2021年Vol.63 No.3 ・調剤と情報, 2021.7, Vol.27, No.10 <p style="text-align: right;">ほか1編</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>単著</p>	<p>2014年</p> <p>2016年</p> <p>2017年</p> <p>2020年</p> <p>2021年</p> <p>2021年</p>	<p>南山堂</p> <p>医薬ジャーナル社</p> <p>株式会社 じほう</p> <p>南江堂</p> <p>株式会社 じほう</p> <p>株式会社 じほう</p>	<p>節題名: 感染症(骨髄炎) 掲載ページ: 1116 - 1130 著者: 榎屋友幸、浅沼邦洋</p> <p>節題名: 第Ⅲ部 治療における最近の新薬の位置付け 抗菌薬 掲載ページ: 91 - 98 著者: 榎屋友幸、村木優一、奥田真弘</p> <p>節題名: テイコプラニン 掲載ページ: 77 - 82 著者: 榎屋友幸、村木優一、奥田真弘 動画シナリオ作成担当</p> <p>節題名: 心肺蘇生 掲載ページ: 289 - 294 著者: 榎屋友幸、今井寛</p> <p>節題名: 第2章薬物動態の使い方 掲載ページ: 52 - 59, 90 - 98</p>
<p>(報告書等)</p> <p>なし</p>				
<p>学術論文 学会発表等の題名</p>		<p>発表者名</p>	<p>発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等</p>	
<p>(学術論文)</p> <p>Characteristics of Japanese Medical and Healthcare University Students with Habitual Consumption of Energy Drinks: Relationship with Perceived Stress.</p> <p>Temporary decrease in tacrolimus clearance in cytochrome P450 3A5 non-expressors early after living donor kidney transplantation: Effect of interleukin 6-induced suppression of the cytochrome P450 3A gene.</p> <p>Postoperative Anaemia Is a Risk Factor for Bleeding-Related Event in Thromboprophylaxis Using Fondaparinux Sodium Injection after Total Knee or Hip Arthroplasty.</p> <p>Risk factor analysis of the decrease in gait speed among Japanese older outpatients with polypharmacy.</p> <p>Usefulness of limited sampling strategy for mycophenolic acid area under the curve considering postoperative days in living-donor renal transplant recipients with concomitant prolonged-release tacrolimus.</p>		<p><u>Enokiya T</u>, Azuma E, Hayashi M.</p> <p><u>Enokiya T</u>, Nishikawa K, Hamada Y, et al. (他3名)</p> <p><u>Enokiya T</u>, Hasegawa M, Morikawa Y, et al. (他3名)</p> <p>Deguchi M, Nishida K, <u>Enokiya T</u> et al. (他1名)</p> <p><u>Enokiya T</u>, Nishikawa K, Muraki Y at al. (他4名)</p>	<p>BPB reports, 2021, 4: 193 - 197.</p> <p>Basic Clin Pharmacol Toxicol. 2021, 128: 525 - 533.</p> <p>Biol Pharm Bull. 2020, 43: 266 - 271.</p> <p>J Pharm Health Care Sci. 2019, 5, 23.</p> <p>J Pharm Health Care Sci. 2017, 3: 17.</p>	

<p>Effect of lipid emulsion infusion on paliperidone pharmacokinetics in the acute overdose rat model: a potential emergency treatment for paliperidone intoxication.</p> <p>Impact of the number of repeated inhalations and patient characteristics on the residual amount of inhaled laninamivir octanoate hydrate dry powder in pediatric patients with influenza.</p> <p style="text-align: right;">ほか 15 編</p>	<p><u>Enokiya T</u>, Zhang E, Ikemura K et al. (他 6 名)</p> <p>Murasaka T, Ikemura K, <u>Enokiya T</u> et al, (他 5 名)</p>	<p>Eur. J. Pharm. Sci. 2017, 109: 217 - 222.</p> <p>J Pharm Health Care Sci. 2017, 3: 26.</p>
<p>(学会発表等)</p> <p>医療系大学の学生を対象としたエナジードリンクに関するアンケート調査</p> <p>分泌型カルシウム依存性ホスホリパーゼ A2 (PLA2G2A) との相互作用によるトロンボモジュリン α の新規抗炎症作用</p> <p>医薬品副作用データベースとケモインフォマティクスによるアナフィラキシーショックに関連する薬物の化学的及び構造的特徴の解析</p> <p style="text-align: right;">ほか 42 件</p>	<p>演者：<u>榎屋 友幸</u>、東 英一、林 雅彦</p> <p>日比野 萌未、井田 愛梨、大西 亮、今井 寛、<u>榎屋 友幸</u></p> <p>演者：大西 亮、日比野 萌未、井田 愛梨、<u>榎屋 友幸</u></p>	<p>第 42 回日本中毒学会総会・学術集会 (Web 開催)、2020 年 8 月</p> <p>日本薬学会第 142 年会 (Web 開催、名古屋)、2022 年 3 月</p> <p>日本薬学会第 142 年会 (Web 開催、名古屋)、2022 年 3 月</p>
<p>(その他)</p> <p>なし</p>		